

# 1

## 生活·福祉部門



### 誰もが共に支えあい、人にやさしい健やかなまちづくり

全国的に少子・高齢社会が進行し、長引く不況により近年の社会情勢が変化する中で、生活に支援が必要な人や様々な悩みを抱える人が増加しており、今後もこの傾向は続くことが推測され、本市においてもその傾向は顕著である。さらに核家族化の進行やライフスタイル、価値観の多様化により、地域における住民同士のつながりが希薄化しており、地域社会は大きく変化している。

このように社会的・構造的な問題が深刻化しているなか、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、共に支えあって生活できる地域社会を築くことが必要である。

地域福祉については、市民一人ひとりが地域社会の一員として豊かに生きることができるようにするため、ボランティアの育成や福祉教育を実施するとともに、既存施設を活用した地域福祉活動の拠点整備を行うなど、\*ノーマライゼーション(解説P.128)の考えに基づき「共に生き、支えあう地域づくり」を目指す。

児童福祉については、安心して子どもを産み育てることができるよう、地域子育て支援拠点の整備や地域性を考慮した保育サービスを充実するとともに、地域全体で子どもの見守りができる環境整備を進め、子育てにやさしいまちづくりを目指す。

障がい福祉については、障がいのある人が住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、身近な相談窓口の設置や就労支援、種々のサービス情報の提供を進めるとともに、社会参加を促進するための地域交流を支援する。

高齢者福祉については、高齢者が健康でいきいきと生活することができるよう、長年培った豊富な経験と知識を生かした生きがいづくりの支援や身近な相談窓口の設置など、「福祉」と「介護」の充実を図り、住み慣れた地域で安心して共に支えあうまちづくりを目指す。

健康づくりについては、「自分の健康は自分でつくり、守る」という意識を高め、様々な年代に向けた市民の健康づくりを支援するため、生活習慣病等の予防対策、健康相談をはじめとした健康づくりに関する事業や、母子の保健指導、健康診査を推進していく。また地域医療については市民一人ひとりが、地域で安心して医療が受けられるよう関係機関との連携をさらに強化していく。

# 1 誰もが共に支えあい、 人にやさしい健やかなまちづくり

## 1 地域福祉

### 1 共に支えあい、やさしい絆(きずな)と笑顔あふれるまちづくり

1-1-1-1

#### 現状と課題

- 地域で暮らす人々のライフスタイルや就業状況、価値観などが多様化し、昔ながらの人々の絆や地域との結びつきが薄くなっているため、住民同士のつながりを深めるイベントなどの施策が必要である。
- 地域の中で人と人、家族単位の関係が希薄化しているため、住民が気軽に集い情報交換できる場が必要である。
- 高齢者福祉や障がい福祉、児童福祉などの様々な制度に関する相談窓口が整備されつつあるが、当事者が悩みを抱え込まないように、身近で気軽に相談できる体制づくりが必要である。
- \*ノーマライゼーション(解説P.128)の考え方にに基づき、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、意識の啓発が必要である。
- 災害時要援護者となり得る要介護者や障がいのある人などに対する地域ぐるみの支援が必要である。





共に支えあい、やさしい絆  
(きずな)と笑顔あふれる  
まちづくり

互いに支えあう人づくり・  
組織づくり・交流の場づくり  
誰もが気軽に相談できる体制づくり  
思いやりのあるまちづくり

### (1) 互いに支えあう人づくり・組織づくり・交流の場づくり

1. 地域福祉を推進していくため、民生委員・児童委員などの活動を支援するとともに、地域を支える人づくりを社会福祉法人熱海市社会福祉協議会とともに進める。
2. 身近な福祉に関心を持つことや福祉の心を育てるため、学校教育や社会教育において、ボランティア講座などを開催する。
3. 高齢者、障がいのある人、子育て支援など、全ての地域福祉活動が充実して行えるよう、地域福祉事業を展開している社会福祉法人熱海市社会福祉協議会を中心とした体制づくりを支援する。
4. 地域福祉の担い手となる住民が、気軽に集い、情報交換できる場が必要であるため、様々な既存施設や地域の資源を有効に活用した地域交流の場づくりを支援する。
5. 地域の結びつきにつなげるため、祭り、運動会、文化祭などの行事や、隣近所での声かけ運動などの地域での取り組みを支援する。
6. 地域サロン活動への支援や老人スポーツ大会、障がい者スポーツ大会の開催など、誰もが集い交流できる事業を実施する。

### (2) 誰もが気軽に相談できる体制づくり

1. 福祉、保健、医療についての様々な相談を受ける窓口の連携を強化し、誰もが利用しやすい相談体制をつくる。
2. 身近な相談員でもある民生委員・児童委員への情報提供や研修会を定期的実施し、地域における見守りや誰もが気軽に相談できる支援体制を強化する。

### (3) 思いやりのあるまちづくり

1. 人にやさしいまちづくりを進めるため、公共施設だけではなく市民が多数利用する施設には\*バリアフリー(解説P.128)や\*ユニバーサルデザイン(解説P.129)が配慮されるよう普及、啓発していく。
2. 市民の人権意識を高めるため、講演会などの啓発活動を実施する。
3. 誰もが安心して暮らせるまちづくりのため、災害時における要援護者に対し、\*災害時要援護者台帳(解説P.125)を活用した地域ぐるみの支援体制を強化していく。

## 2 児童福祉

### 1 夢と希(のぞみ)あふれる、子育てにやさしいまちづくり 1-1-2-1

#### 現状と課題

- 本市の\*合計特殊出生率（平成15年～平成19年）（解説P.124）は1.14であり、静岡県の1.44に比べ非常に低くなっている。急速に少子化が進むなか、子どもを持つことや、子育てに対し喜びが実感できるよう、地域全体において子どもを産み育てやすい環境と経済的支援の整備が必要である。
- 地域社会における人間関係が希薄化するなか、子育てにおいて孤立することなく、安心して子育てを行えるように地域や親同士の交流が必要である。
- 共働き家庭、核家族が増え、個々のライフスタイルも多様化するなか、子育てと仕事が両立できるよう、多様な保育ニーズに対応する保育サービスの提供や、職場への理解と協力を求める必要がある。
- 子どもを取り巻く環境の変化に伴い、子どもが巻き込まれる犯罪が複雑化しているなか、児童虐待も含め子どもを狙った犯罪から守るために関係機関を含めた地域全体の取り組みが必要である。

#### ●親子ふれあいサロン利用状況

年度別	ふれあいサロン		
	一時預かり保育(人)	来所相談(件)	電話相談(件)
平成17年	168	53	2
平成18年	194	20	1
平成19年	251	2	0
平成20年	323	2	0
平成21年	305	3	0

資料：健康と子育て支援課





夢と希(のぞみ)あふれる、  
子育てにやさしいまちづくり

子育て支援の充実  
保育サービスの充実  
子どもの安全確保

### (1) 子育て支援の充実

1. 子育ての支援をして欲しい人と支援したい人双方のニーズに応え、子育てと仕事の両立を手助けする\*ファミリーサポート制度(解説P.128)を導入する。
2. 地域における社会資源を活用した子育て支援拠点の整備を行うとともに、地域の人材を活用し地域全体が連携できる体制を整える。
3. 子育て家庭が安心してゆとりをもって子育てができるよう、一時預かり事業の対象年齢を乳児へ拡大するとともに実施施設を増設する。
4. 子育て家庭の経済的負担の軽減を図るため、子ども医療費助成制度の対象年齢の拡大をはじめとした子どもと家庭への支援を行う。
5. 親同士が子育ての喜びや不安を共有できるように、地域でのつながりや子育てサークルの活動を支援する。
6. 子育てと仕事が両立できるよう、職場における理解や協力についての啓発を推進する。

### (2) 保育サービスの充実

1. 本市の地域性を考慮し、保育園における延長保育、乳児保育、休日保育をはじめとした多様な保育サービスを拡充する。
2. 多様化する幼児教育、保育ニーズに対応するため、幼稚園と保育園が柔軟に連携し、地域の子育て支援の中核としての機能を充実する。
3. 園児の安全を確保するため、保育園の施設環境の整備と改善に取り組む。
4. \*放課後児童クラブ(解説P.128)の開所日、開所時間、対象年齢や実施学区など保護者のニーズに沿った運営を推進する。

### (3) 子どもの安全確保

1. 熱海市要保護児童対策地域協議会を中心に子どもを取り巻く様々な問題を未然に防ぐとともに、早期発見、早期対応を図る。
2. インターネットなどの有害情報やいじめから子どもを守り、子どもを取り巻く環境を良好に保つよう、家庭や学校と連携した啓発活動を行う。
3. 子どもの人権や権利擁護について市民に意識啓発するとともに、あらゆる場を通じた人権教育を推進する。
4. 子どもが集まる学校や公園などへの、不審者の侵入に備えるため、保護者、住民や警察等の関係機関と連携し、防犯体制を強化する。

# 3 障がい福祉

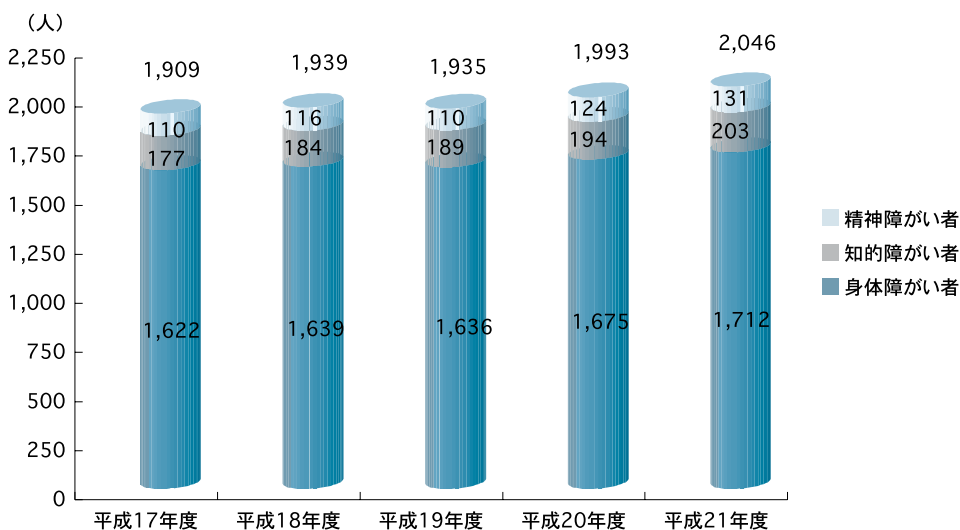
## 1 障がいのある人の自立と社会参加への翔(はばたき)を目指したまちづくり

1-1-3-1

### 現状と課題

- 障がいのある人（身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者）を支援するための関連法等の成立により、相談体制やサービスの整備が図られつつあるなか、必要とする人がサービスを選択し、活用できるよう、効果的な情報提供とその周知を図る必要がある。
- 障がいのある人ができる限り住み慣れた地域で自立して生活できるよう、居宅サービスを充実するとともに、就学支援、就労支援をきめ細かく行う必要がある。
- 障がいのある人とない人が互いに理解を深めるために、社会参加を促進する交流活動を積極的に進めることにより、地域全体で支えあう意識の普及、啓発に努める必要がある。

●身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者数の推移



※身体障がい者数は身体障害者手帳所持者数  
 ※知的障がい者数は療育手帳所持者数  
 ※精神障がい者数は精神障害者保健福祉手帳所持者数

資料：社会福祉課

## 施策 の 方向

障がいのある人の自立と社会参  
加への翔(はばたき)を目指した  
まちづくり

共に生きるまちづくり  
働き、学び、活動できる  
まちづくり

### (1) 共に生きるまちづくり

1. 必要なときに必要なサービスを選択して利用できるようにするため、障がいの特徴にあわせた媒体を用いて、より分かりやすいサービスの情報を提供する。
2. 障がいのある人とその家族が抱える日常生活の支援や悩みなどに対して、身近に相談できる体制を整える。
3. 様々な障がいに対する理解と認識を深めるために、学校での福祉教育や、福祉に関する講演会を通じた啓発活動を推進する。
4. 地域の様々な活動や行事に障がいのある人とない人が共に参加できるよう、主催者や町内会に働きかけ、お互いの地域交流を図る。
5. 障がいのある人が住み慣れた地域の中で自立した生活ができるように、ニーズの多様化に対応した居宅サービスを充実させる一方、新たな障がい施設整備計画を策定する。

### (2) 働き、学び、活動できるまちづくり

1. 住み慣れた地域で障がいのある人とない人が、共にいきいきと働くことができる地域社会を形成していくために、就労支援の充実と企業への雇用促進の理解と啓発を行う。
2. 障がいのある子どもの入園や就学に向けての支援は、子どもの特徴と親の希望等を尊重し、個性をより発揮でき、能力を伸ばし、楽しく園や学校生活を送れるよう、幼児期から関係機関が連携した支援体制をつくる。





# 4 高齢者福祉

## 1 高齢者が健康で輝(かがやき)に満ちた生きがいのあるまちづくり

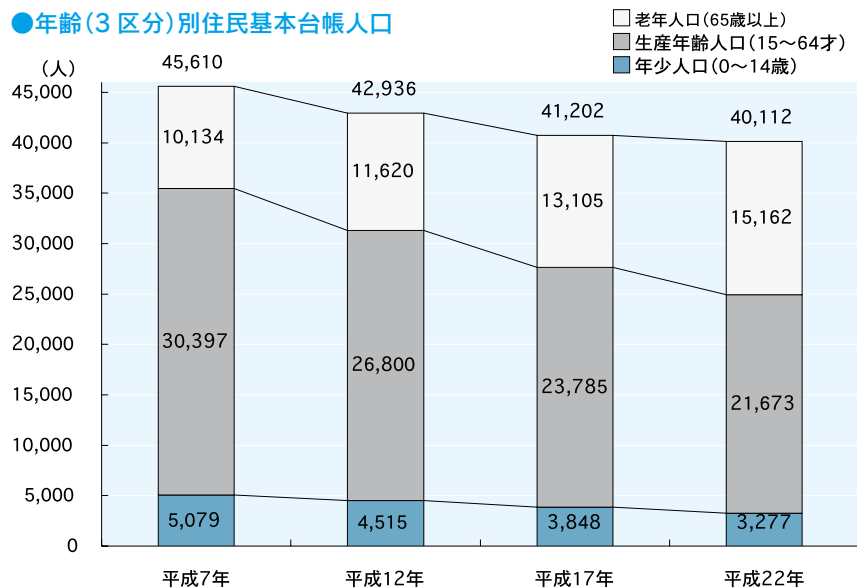
1-1-4-1

### 現状と課題

- 本市の高齢化率は、37.4%となっており、静岡県の23.0%に比べ大きく上回っている(平成22年4月現在)。また、前回計画からの増加率も、静岡県の平均が3.2%の上昇であったのに対し、本市は6.1%上昇しており、他市に比べ高齢化率の上昇が顕著であり、今後、数年で団塊の世代が65歳を迎える現状を考慮すると、高齢者福祉施策を計画的に進めることが必要である。
- 高齢者が生きがいをもって、住み慣れた地域で元気に生活していくためには、仲間づくりや、交流の機会を拡大することが必要である。
- 高齢者が自らの経験と知識を生かすことができる環境の整備を行うことで、新たな生きがいを見つけることが必要である。
- ひとり暮らし高齢者の世帯は、高齢者がいる世帯10,800世帯のうち、4,593世帯(平成22年4月現在)で、その割合は42%を越えており、今後も増加することが予測される。また、生活不安などに関する問題もあり、新たな支援に関する施策が必要である。
- 高齢者自身やその家族の不安や悩みを解消するため、身近に相談できる体制を充実させる必要がある。
- 介護が必要となった人や介護状態になりそうな人が、住み慣れた地域で安心して生活が営めるよう、様々な福祉・介護サービスの周知や制度の充実が必要である。

健康でいきいきとした生活を送るためには、要介護の状態にならないよう、介護予防に関する情報提供や事業の充実が必要である。

●年齢(3区分)別住民基本台帳人口



平成7、12、17年度は国勢調査。平成22年は9月末日の住民基本台帳人口。

資料:市民生活課



## 施策 の 方向

高齢者が健康で輝(かがやき)  
に満ちた生きがいのあるまち  
づくり

高齢者の生きがいづくり  
高齢者福祉サービス・  
介護予防の充実

### (1) 高齢者の生きがいづくり

1. 高齢者が生きがいを見つける機会を増やすとともに、ひとり暮らし高齢者の社会的孤立を防ぐため、スポーツ、文化、ボランティア活動や、豊富な経験と知識を生かし子育て支援分野でも活躍できる環境を整備する。
2. 高齢者誰もが参加しやすい活動を実施できるようにするため、高齢者が互いに親睦を深めるための老人クラブや、地域との連携を図ることを目的とした自主的な社会活動組織などを支援する。
3. 高齢者の豊富な経験と技術・知識を発揮できるようにするため、多くの高齢者が社団法人熱海市シルバー人材センターの会員となれるよう周知をしていくとともに、市民の利用を促していく。

### (2) 高齢者福祉サービス・介護予防の充実

1. 地域で身近に福祉や介護の相談ができるようにするため、熱海、泉・伊豆山、南熱海地区の生活圏域ごとに\*地域包括支援センター(解説P.126)を計画的に設置していく。
2. 高齢者がいつまでも健康的な生活を送るため、心身の状況の改善だけではなく、生活機能全体の維持・向上を図り、要介護状態にならないよう、介護予防についての情報提供と誰もが参加できる介護予防事業を推進していく。
3. ひとり暮らしをはじめとした全ての高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を続けていくため、既存の高齢者福祉サービスや介護サービスの周知及び利用のための支援を推進していくとともに、高齢者のニーズを把握し、新たなサービスを導入していく。

# 5 健康づくり

## 1 誰もが健やかで生きいき(いきいき)暮らせるまちづくり

1-1-5-1

### 現状と課題

- 急速な高齢化に伴い疾病構造が変化し、生活習慣病対策が市民の生活の質を確保するうえで重要な鍵となっているため、正しい生活習慣を身に付けられるよう、様々な年代やライフスタイルに応じたきめ細かい支援が必要である。
- 本市の死因別 \* S M R (標準化死亡率)(解説P.122)は悪性新生物・心疾患・脳血管疾患いずれにおいても静岡県より高く、特に壮年層の S M Rは高い状況にある。
- 自分の健康は自分でつくり、守るという意識を持ち、健康づくりを進めなければならないことから、食育の取り組みをはじめ、家庭・職場・地域における健康づくりに対する支援が必要である。
- 家族形態が変化しているなか、出産や育児に対して不安を持つ親が増加していることから、様々な不安を解消するために、妊娠中から継続した支援が必要である。
- 急速に変化する社会環境のなか、家庭や学校、職場さらには地域において過度のストレスにより心の健康を害してしまう人が増加しているため、予防も含めた支援体制づくりが必要である。
- 近年、感染症を取り巻く状況は大きく変化しているため、医療体制など地域の実情に応じた行動計画の策定と迅速な対応が必要である。
- 市内の医療体制は「救急医療」「医師確保」などの課題がある中で、誰もが安心して医療が受けられるよう、さらなる医療体制の充実が必要である。
- 適正な医療を推進するため、市民が地域の医療体制の現状や問題点、加入している医療保険の状況などに広く関心を持つ必要がある。



#### ●健康診査受診状況

年度	肺がん検診			乳がん検診			胃がん検診			大腸がん検診			子宮がん検診		
	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率
平成17年度	10,989	7,251	66.0%	8,082	651	8.1%	8,875	3,005	33.9%	11,473	3,166	27.6%	10,116	509	5.0%
平成18年度	28,279	7,200	25.5%	7,616	706	9.3%	28,279	2,926	10.3%	28,279	3,150	11.1%	9,558	514	5.4%
平成19年度	28,134	6,783	24.1%	7,829	755	9.6%	28,134	2,531	9.0%	28,134	2,799	9.9%	9,474	437	4.6%
平成20年度	28,201	5,847	20.7%	7,810	800	10.2%	28,201	2,533	9.0%	28,201	2,835	10.1%	9,345	475	5.1%
平成21年度	28,323	6,087	21.5%	7,946	682	8.6%	28,323	2,449	8.6%	28,323	2,744	9.7%	9,575	458	4.8%

資料：健康と子育て支援課

## 施策 の 方向

誰もが健やかで生きいき(いきいき)暮らせるまちづくり

自ら取り組み支えあう健康づくり

感染症対策

適正医療の推進

### (1) 自ら取り組み支えあう健康づくり

1. 生活習慣病等の予防と早期発見・早期治療を行うため、健康診査の体制を充実していくとともに、健康に関する情報を提供する。
2. 正しい生活習慣を身につけるため、年代・性別・家族形態・ライフスタイルに応じた健康相談・健康教室を行う。
3. 健康な心と身体を培い豊かな人間性を形成していくため、様々な世代が「食」の大切さを学び、地域の特性を生かした、食育に関する取り組みを推進する。
4. 家庭や職場、地域単位での健康づくりを支援するため、健康づくり推進委員連絡会などの地域組織活動の連携を強化していく。
5. 妊娠期から出産や育児・子どもの発育・発達に関する不安に対応するため、母子保健の相談体制や緊急支援体制について、関係機関と連携し機能を充実する。

### (2) 感染症対策

1. 感染症の発生・拡大を防止するために、普段から予防に対する正しい知識の普及や予防接種の体制を整えるとともに、蔓延に備え、家庭・職場・地域において対策がとられるように情報提供を行う。
2. 感染症の発生段階により関係機関と連携し行動計画の策定を行うとともに、医療機関の体制を含めた実効性のある対策を講じ被害の拡大を抑える。

### (3) 適正医療の推進

1. 「静岡県保健医療計画」に沿って、市民がより安心して医療サービスを受けられるよう、関係機関と連携する。
2. 一人ひとりが適正な医療を受けるため、地域の医療体制を充実し、医療を身近な問題として感じられるよう様々な方法で情報を提供する。

